

令和2年度「高校生熟議2020」開催

本年度開催された高校生熟議の様子について紹介します。まず最初に、本年度トップを切って開催した小野田高校の取組についてです。令和2年10月22日(木)「山陽小野田市を活性化するために私たちにできることは?」というテーマについて「どうしたらいいか?」「何ができるか?」などについて熟議が行われました。まず、最初に



市役所職員5名によるパネルディスカッションが行われ、市の現状と課題についてや、市の魅力や特色、文化スポーツ、歴史、教育活動や子育て支援などについて多方向からの意見が交わされました。続いて、第2学年生徒約140名が5〜7名からなる22のグループに分かれ、代表生徒による全体進行及び各班の議論を促進させる役割のファシリテーターの進行により、テーマに基づき意見を出し合



ファシリテーター研修
(本番までに2回行いました)



い、議論をし、地域活性化に向けた企画を立案しました。そして最後に、各グループの発表が行われ、「医療や福祉の充実」「産業や経済の発展」「環境問題や防災対策」「観光開発や過疎化対策」などについて様々な提案が示されました。次に、熊毛南高校の取組についてです。令和2年11月16日(月)「帰りたいふるさと」というテーマについて熟議が行われました。第1学年生徒約60名が12のグループに分かれ、さらに地域住民や卒業生



らが、それぞれのグループに一人ずつ加わり、意見を交わしました。生徒一人ひとりが地域で撮影し持ち寄った写真を手掛かりに、テーマに基づき意見を出し合い、議論をし、「帰りたいふるさとづくり」



について企画を立案しました。各グループの発表では、「自然環境を守る取組」「医療機関の充実」「地域の伝統行事やボランティア活動への参加」等に関する様々なアイ



各グループからの発表の様子

デアが示されました。

最後に、萩高校での取組についてです。令和2年11月24日(火)「これからの萩市のために私たちができること」というテーマについて熟議が行われました。初めに「萩高・萩高生(若者)の強み・弱み、萩の町の強み・弱み」について出し合って話し合い、その内容をもと

に「私たちにできることは何か？」などについて熟議が行われました。第2学年生徒約130名が7〜8名からなる17のグループに分かれ、テーマに基づき意見を出し合い、議論をし、取組の「スローガン」を立案しました。各グループの発表では、「来たれ若者！イベント大作戦」「歴史ある萩を活性化させよう！〜もつと知ってもらおう、来てもらおう、そのためにもつと知



ろう〜」など、インパクトのあるスローガンが提案されました。

「高校生熟議」の取組は、小野田



高校、熊毛南高校では初めての取組でしたが、萩高校では5回目の取組でした。高校生熟議は、山口県や地元地域における様々な課題について高校生目線で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるといったことを目的の一つとしている取組で、各学校やPTAが主催し、山口県公立高等学校PTA連合会が後援して実施しています。特に本年度はコロナ禍の中、広い会場(体育館)で三密防止対策を



十分に行った上で実施しました。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されますようご検討をお願いします。なお、熟議に関するお問い合わせは、高P連事務局までお願いします。

